



NEC Generative AI Appliance Server FC-S13G セットアップ・復旧ガイド

第 1 版

2026 年 6 月

© NEC Corporation 2026

商標について

ミラクル・リナックス、MIRACLE LINUX は、サイバートラスト株式会社の登録商標です。

Red Hat、Red Hat Enterprise Linuxは米国およびその他の国におけるRed Hat, Inc.の商標または登録商標です。

Linux は Linus Torvalds 氏の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Microsoft、Windows、Windows Server は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

本書のサンプル画像などで使用している名称は、すべて架空のものです。実在する品名、団体名、個人名とは一切関係ありません。

記載の会社名および商品名は各社の商標または登録商標です。

ご注意

- (1) 本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁止されています。
- (2) 本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
- (3) NEC の許可なく複製・改変などを行うことはできません。
- (4) 本書の内容および本書を使用した結果について明示的にも黙示的にも一切の保証を行いません。

© NEC Corporation 2026

目次

1	はじめに	5
2	装置のセットアップ	6
2.2	サーバ本体の設置	6
2.3	ケーブル・周辺機器の接続	6
3	初期設定	8
3.1	起動	8
3.2	MIRACLE LINUX の設定	8
3.3	Generative AI FW の設定	11
3.4	プリインツールの設定	11
4	装置の再起動・シャットダウン	13
5	工場出荷状態に戻す	14
5.1	インストーラの入手	14
5.2	USB スティックの作成	14
5.3	インストーラを用いた初期化の実施	16
6	障害後の設定復旧	18
6.1	復旧作業前の準備	18
6.2	装置への接続手順	18
6.3	設定バックアップファイルのリストア手順	19

1 はじめに

本書では、ご購入された NEC Generative AI Appliance Server の運用を開始する前に行うセットアップ及び運用時の復旧方法に関して説明します。

『**美琴 powered by cotomi**』は LLM フレームワークとして『**Generative AI FW**』を利用しています。本書は、『**Generative AI FW V2.2.3**』が搭載された『**NEC Generative AI Appliance Server FC-S13G**』を対象としています。

2 装置のセットアップ

2.2 サーバ本体の設置

サーバ本体の設置を行う際は「FC-S13G for cotomi ユーザーズマニュアル」の「第2章 設置の手引き」を参照の上、適切な方法で設置を行ってください。

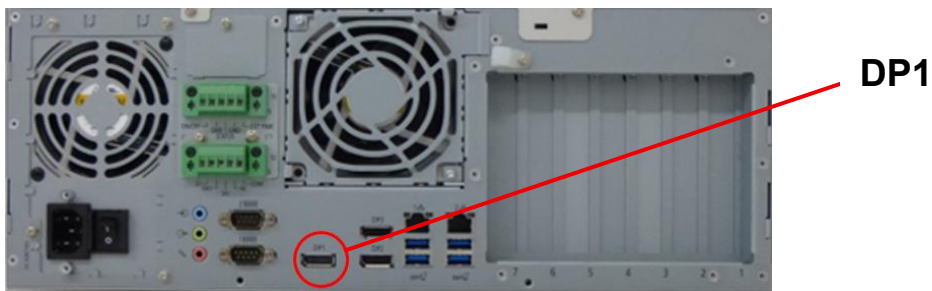
2.3 ケーブル・周辺機器の接続

設置したサーバ本体にケーブルや周辺機器を接続します。

下記の機器・ケーブルを用意してください。

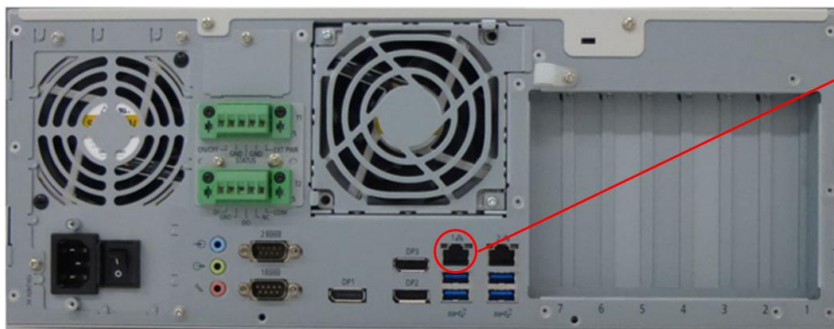
- ディスプレイ
- マウス(本装置に同梱)
- キーボード(本装置に同梱)
- 電源ケーブル(本装置に同梱)
- LAN ケーブル

ディスプレイを本装置背面の DisplayPort 出力コネクタ DP1 に接続します。



本装置に同梱されているキーボード、マウスを USB コネクタに接続します。

LAN ケーブルを本装置背面の「1」と表示された LAN ポートに接続してください。



最後に電源ケーブルを AC 電源コネクタに接続し、主電源スイッチをオンにしてください。

以上で装置のセットアップは完了です。

続けて初期設定を行う際は「3 初期設定」を参照してください。

3 初期設定

3.1 起動

装置前面のスイッチカバーを開き、電源スイッチを押してください。

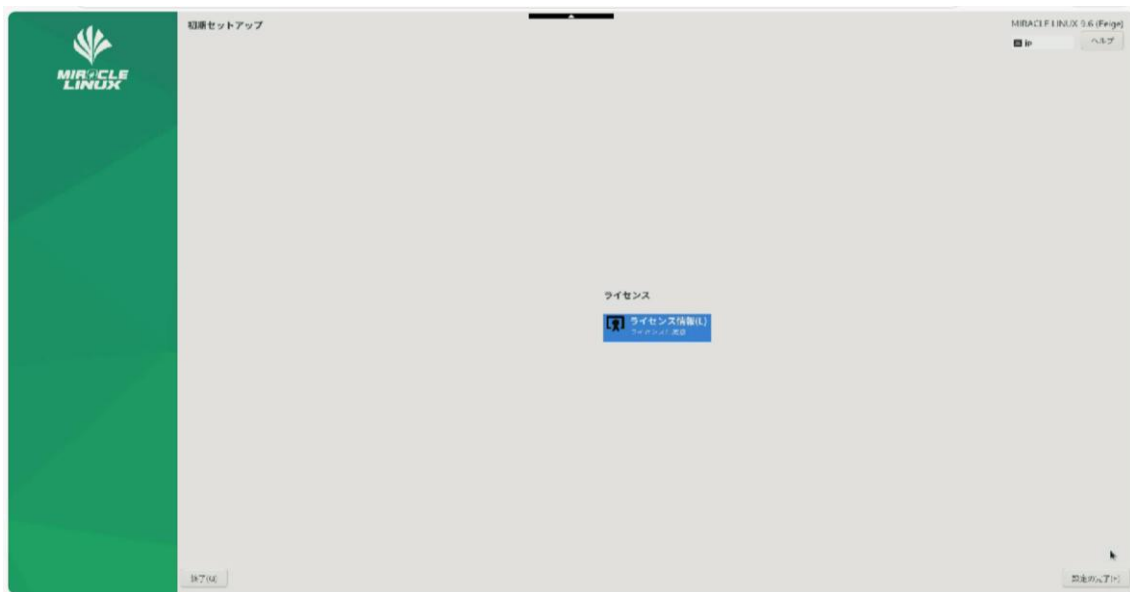
電源ランプが緑色に点灯し、装置が起動します。

3.2 MIRACLE LINUXの設定

3.2.1 ライセンス契約同意

MIRACLE LINUX のライセンス契約に同意する必要があります。

装置が起動すると初期セットアップ画面が表示されます。



「ライセンス情報(L)」 を選択します。

ライセンス契約画面が開き、MIRACLE LINUX のライセンス条項が表示されます。

使用許諾契約書を確認して、「ライセンス契約に同意します」のチェックボックスを選択します。

「完了」 をクリックして設定を適用し、初期セットアップ画面に戻ります。

その後「設定の完了」をクリックするとログイン画面となります。

3.2.2 ログイン

本装置には MIRACLE LINUX の初期ユーザーが登録されており、ユーザー名とパスワードは装置に添付されている初期パスワード案内に記載しております。

ディスプレイに表示されているログイン画面から初期ユーザーでログインします。

3.2.3 ネットワーク設定

- ホスト名の設定

「端末」アプリケーションから `hostnamectl` コマンドで、ホスト名(FQDN)を設定します。

```
$ sudo hostnamectl set-hostname <ホスト名 (FQDN)>
```

「端末」アプリケーションを一旦終了し、再度アプリケーションを起動します。

`hostnamectl` コマンドでホスト名が変更されたことを確認します。

```
$ hostnamectl status --static  
(設定されたホスト名が表示されます)
```

- IP アドレスの設定

MIRACLE LINUX では、ネットワーク設定は `NetworkManager` で管理します。

IP アドレス設定は `nmcli` コマンドを使用して実施します。

- 接続の一覧を表示します。

```
$ nmcli connection show
```

- `eno1` に IP アドレス、デフォルトゲートウェイ、DNS サーバ、自動接続を設定します。

```
$ sudo nmcli connection modify eno1 ¥  
  ipv4.method manual ¥  
  ipv4.addresses 192.0.2.1/24 ¥  
  ipv4.gateway 192.0.2.254 ¥  
  ipv4.dns 192.0.2.200 ¥  
  connection.autoconnect yes
```

上記の例では以下の設定を行っています。実際の環境に合わせて値を変更してください。

- IP アドレス: 192.0.2.1/24
- デフォルトゲートウェイ: 192.0.2.254

-
- DNS サーバ: 192.0.2.200

- 設定を反映します。

```
$ sudo nmcli connection up eno1
```

設定反映後、ping コマンドなどで外部への疎通を確認してください。

```
$ ping -c 4 <ゲートウェイまたは外部 IP アドレス>
```

3.2.4 時刻同期設定

以下のいずれかの方法で時刻同期設定を行ってください。

- 手動設定

システムの現在時刻を変更します。

```
$ sudo timedatectl set-time <HH:MM:SS>
```

HH は時間、MM は分、SS は秒を表す数字に置き換えます。

システムの現在日を変更します。

```
$ sudo timedatectl set-time <YYYY-MM-DD>
```

YYYY は 4 桁の年に、MM と DD は 2 桁の月と日に置き換えます。

時間を指定せずに日付を変更すると、時間は 00:00:00 に設定されることに注意してください。

現在日時の変更を確認します。

```
$ timedatectl
```

- NTP プロトコルによる設定

MIRACLE LINUX は NTP プロトコルによる時刻同期に対応しています。

NTP プロトコルによる時刻同期を利用する場合は、Chrony の設定を行います。

以下は、NTP サーバ `ntp.example.com` と時刻同期する例です。

- Chrony の設定ファイルを更新します(エディタは vi 以外でも構いません)。

```
$ sudo vi /etc/chrony.conf
```

```
pool ntp.miraclelinux.net iburst
```

の行を、以下の内容に変更し保存します。

```
server ntp.example.com iburst
```

複数の NTP サーバを利用する場合は、以下のように複数行記載できます。

```
server ntp1.example.com iburst
```

```
server ntp2.example.com iburst
```

- chronyd サービスを開始、有効化します。

```
$ sudo systemctl enable --now chronyd
```

- chronyd サービスの状態を確認します。

```
$ sudo systemctl status chronyd
```

- 同期状態を確認します。

```
$ chronyc tracking
...(略)
System time      : 0.000006523 seconds slow of NTP time
...(略)
Leap status     : Normal
```

3.3 Generative AI FW の設定

本装置には Generative AI FW V2.2.3 が構築された状態です。

Generative AI FW V2.2.3 のセットアップガイドを参照し、セットアップを行ってください。

3.4 プリンツールの設定

3.4.1 maxView Storage Manager

maxView Storage Manager は装置の RAID システムを管理するソフトウェアです。

本装置には既にインストールされていますが、ご使用前に maxView Storage Manager にログインするための root ユーザーにパスワードを設定する必要があります。

maxView Storage Manager を使用する際は、事前に以下の手順でパスワードの設定を行ってください。

以下のコマンドを実行します。

```
$ sudo passwd root
```

新しいパスワードを入力します。

```
ユーザー root のパスワードを変更。  
新しい パスワード:  
新しい パスワードを再入力してください:
```

3.4.2 ソフトウェアRAS

ソフトウェア RAS はハードウェア状態の監視を行うソフトウェアです。

本装置には既にインストールされていますが、設定はされていません。

ご利用になる場合は、「ソフトウェア RAS ツール (Linux 版) 取扱説明書」の「4.使用方法」を参照し設定を行ってください。

以上で装置の初期設定は完了です。

4 装置の再起動・シャットダウン

NEC Generative AI Appliance Server では、WebUI である「メンテナンス GUI」を用いて装置の再起動・シャットダウンを行うことができます。

以下のガイドを参照して、メンテナンス GUI に接続してください。

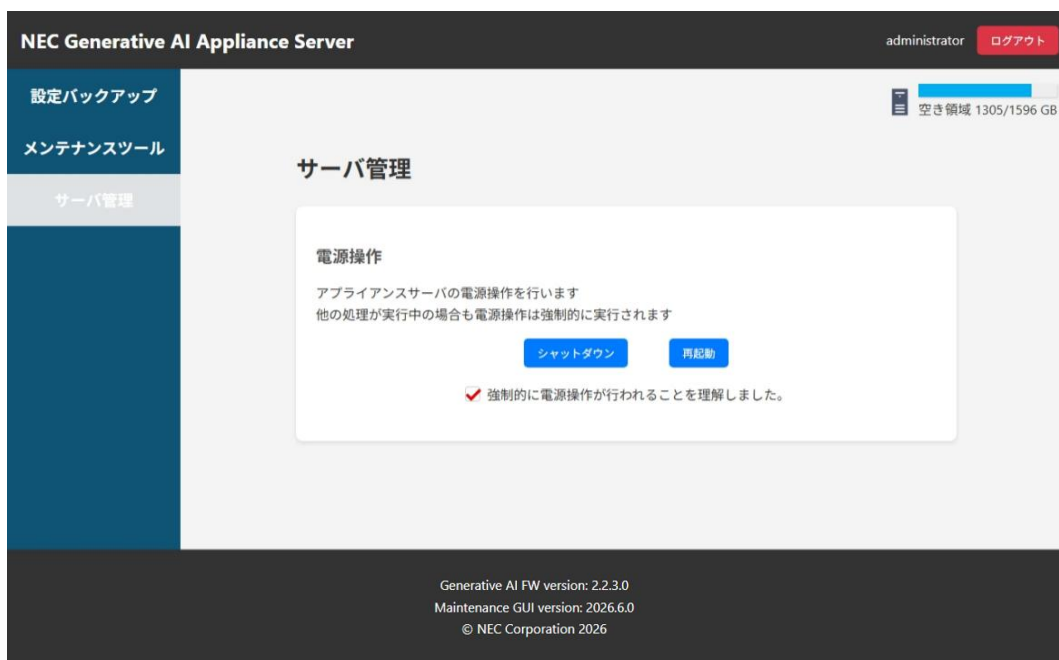
[NEC Generative AI Appliance Server FC-S13G メンテナンス GUI マニュアル <2026.6.0>](#)

[「3 接続方法について」](#)参照

サイドバーから「電源管理」のタブを選択して、再起動・シャットダウンを実行します。

[NEC Generative AI Appliance Server FC-S13G メンテナンス GUI マニュアル <2026.6.0>](#)

[「5.5 サーバ管理」](#)参照



5 工場出荷状態に戻す

NEC Generative AI Appliance Server では、工場出荷状態を記録したインストーラを用いて初期状態のインストール(初期化)を行うことができます。

5.1 インストーラの入手

工場出荷状態に戻すためには zip ファイル形式のインストーラを使用します。
インストーラを入手する際は、NEC サポートまでご連絡ください。

5.2 USBスティックの作成

入手した zip ファイルを使ってインストール用の USB スティックを作成します。

USB スティックの作成は Linux 環境のサーバで実行してください。

※USB スティックは容量が 128GB 以上のものを使用してください。

5.2.1 USBのパーティション設定

USB スティックを Linux 環境のサーバに接続し、どのデバイス名で認識されているかコマンドで確認します。

以下の例では、「/dev/sda」に USB が認識されているので、以降はデバイス名を「sda」とします。

```
$ lsblk -o +VENDOR, MODEL
NAME          MAJ:MIN RM  SIZE RO TYPE MOUNTPOINT VENDOR  MODEL
sda            8:0    0  476.9G  0 disk                XXX     SSD-XXXXX
... (以下略)
```

確認したデバイス名でパーティション設定を開始します。



設定時の注意事項

以降の手順で USB スティック内のデータは初期化されます。

重要なデータが保存されている場合は他の場所に退避してからパーティション設定を開始してください。

```
$ sudo fdisk /dev/sda
```

GPT パーティションテーブルを作成します。

```
コマンド (m でヘルプ): g
```

新たにパーティションを作成します。

以下の例では、Partition number をデフォルト設定の「1」としているため、以降パーティションを選択する際は「sda1」を指定します。

```
コマンド (m でヘルプ): n
パーティション番号 (1-128, 既定値 1): (ENTER を入力)
最初のセクタ (2048-1000215182, 既定値 2048): (ENTER を入力)
最終セクタ, +/-セクタ番号 または +/-サイズ [K, M, G, T, P] (2048-1000215182, 既定値
1000215182): (ENTER を入力)

新しいパーティション 1 をタイプ Linux filesystem、サイズ 476.9 GiB で作成しました。
パーティション #1 には vfat 署名が書き込まれています。

署名を削除しますか? [Y]es/[N]o: y

署名は write (書き込み) コマンドを実行すると消えてしまいます。
```

ディスクに書き込み、パーティション設定を終了します。

```
コマンド (m でヘルプ): w
```

作成した USB スティックのパーティションに FAT32 ファイルシステムを作成します。

```
$ sudo mkfs.vfat -F 32 /dev/sda1
```

5.2.2 zipファイルをUSBスティックに展開

USB スティックを任意の場所にマウントします。

ここでは /media/usb ディレクトリにマウントする例を示します。

```
$ sudo mkdir /media/usb
$ sudo mount /dev/sda1 /media/usb
```

zip ファイルを USB スティックに展開します。

```
$ sudo unzip <zip ファイルのパス> -d /media/usb
```

USB スティックをアンマウントします。

```
$ sync
$ sudo umount /media/usb
```

アンマウントしたら、USB スティックをサーバから取り外してください。

5.3 インストーラを用いた初期化の実施

作成した USB スティックを用いてサーバの初期化を実行します。

5.3.1 インストールメディアの接続

サーバに USB スティックを接続します。

本体装置の電源を入れ、POST 画面で F7 キーを押して BOOT MENU を起動します。

USB スティックのデバイスを選択してインストーラ起動します。

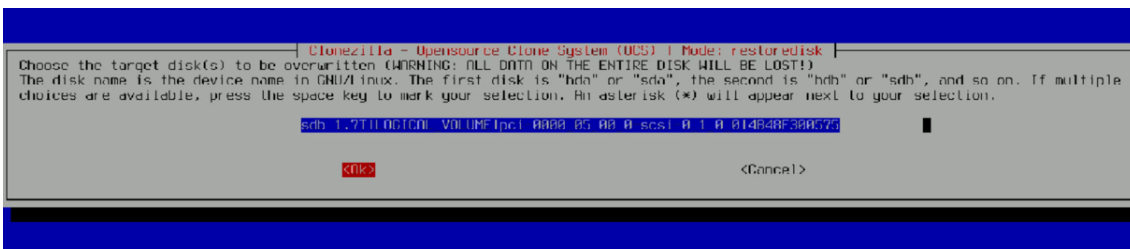
5.3.2 初期化の実行

以下の画面が表示されるので、「Clonezilla live with img NGAS_FCS13G_2026XXXX_00 (VGA 800x600)」を選択し ENTER を押下します。



以下の画面でイメージのインストール先となるデバイスを選択します。

「XXXX.....(※インストール先の RAID LD)」と記載のあるデバイスを選択してください。



以降は自動でインストールが実行されます。

※環境によってインストール途中で「press Enter to continue」と表示されることがあるので、ENTERを押下してインストールを継続してください。

コンソール上に以下の表示が出たらインストール完了です。

```
... (略)
Ending /usr/sbin/ocs-sr at YYYY-mm-dd HH:MM:SS UTC...
"ocs-live-restore" finished.
Check /var/log/clonezilla.log for more details.
The next step: true
Now run: true
user@debian:~$
```

以下のコマンドを入力し、サーバをシャットダウンします。

```
$ shutdown -h now
```

シャットダウンしたことを確認したら、USBをサーバから取り外してください。初期化は完了です。

続けて初期設定を行う際は、「3 初期設定」を参照してください。

バックアップファイルを使用した復旧を行う際は、「6 障害後の設定復旧」を参照してください。

6 障害後の設定復旧

この章では、NEC Generative AI Appliance Server のディスク障害などにより、データが消失した際の設定復旧手順を説明します。

本装置には、設定のバックアップ・リストア機能があります。

あらかじめ正常時にバックアップを取得しておけば、障害発生後でも設定を簡単に復元できます。

詳しい操作方法は、「NEC Generative AI Appliance Server FC-S13G メンテナンス GUI マニュアル <2026.6.0>」を参照してください。

もし、ハードウェア障害でディスクデータが失われた場合は、まず保守部門へ連絡し、ハードウェア交換を実施してください。次に、本ガイド「5 工場出荷状態に戻す」に従って工場出荷状態へ初期化してください。

以降の章では、「Generative AI FW V2.2.3」が搭載された工場出荷状態から、事前に取得したバックアップファイルを使って復旧する手順を説明します。

6.1 復旧作業前の準備

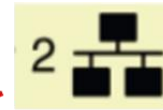
下記の機器・ファイルを用意してください。

- 出荷状態に初期化した本装置
- Microsoft Edge ブラウザが利用可能な Windows OS 搭載コンピューター
- 事前に作成した設定バックアップファイル (Windows OS 搭載コンピューターに格納してください)
- LAN ケーブル

6.2 装置への接続手順

6.2.1 LANケーブルで装置に直結する

Windows コンピューターを、本装置背面の「2」と表示された LAN ポートに LAN ケーブルで直接接続してください。



6.2.2 ネットワーク疎通確認

装置側には IP アドレス 169.254.111.11 が割り当てられています。

Windows コンピューターからコマンドプロンプトで以下を実行し、疎通を確認します。

```
$ ping 169.254.111.11
```

応答がない場合、Windows コンピューターの IP アドレスを手動で以下に設定してください。

- IP アドレス: 169.254.111.12
- サブネットマスク: 255.255.0.0

設定後、再度 ping コマンドで疎通確認を行ってください。

6.2.3 メンテナンスGUI へアクセス

Windows コンピューターの Microsoft Edge で、下記 URL にアクセスします。

- <https://169.254.111.11:20531/login>

工場出荷状態の初期ログイン情報は装置に添付されている初期パスワード案内に記載しております。

6.3 設定バックアップファイルのリストア手順

詳細な手順や画面は「NEC Generative AI Appliance Server FC-S13G メンテナンス GUI マニュアル <2026.6.0>」を参照ください。

6.3.1 ファイルのアップロード

メンテナンス GUI で「設定バックアップ」の画面を開き、事前に保存しておいたバックアップファイルをアップロードします。

NEC Generative AI Appliance Server FC-S13G メンテナンス GUI マニュアル <2026.6.0>

「5.2.4 バックアップファイルをアップロードする」参照

6.3.2 リストアの実行

アップロードしたバックアップファイルの「リストア」ボタンを押してください。

NEC Generative AI Appliance Server FC-S13G メンテナンス GUI マニュアル <2026.6.0>

「5.2.5 リストアを実行する」参照

6.3.3 装置の再起動

リストア後は、画面の案内に従い装置の再起動を行います。

NEC Generative AI Appliance Server FC-S13G メンテナンス GUI マニュアル <2026.6.0>

「5.2.5 リストアを実行する」参照